

マラヤ大学体験記～先住民に対するフィールドワークを体験して～

学生プロフィール

【所属】	都市教養学部都市教養学科 人文・社会系
【学生氏名】	大里 芳治
【派遣先大学】	マラヤ大学(マレーシア)
【派遣時の学年】	学部 4 年
【留学期間】	6 か月間



留学中のベストショット！
友人が誕生日を祝ってくれました！

◇ 東南アジアにあこがれて

私は幼いころから、メディアなどでよく語られている「これからは東南アジアの時代だ。」という言葉から、非常に東南アジアの国々に対してとても興味がありました。そして首都大学東京の交換留学協定校の一つにマレーシアのマラヤ大学があるということを知り、大学入学を機に、こちらの大学に留学しようと決めました。また、同時期に東京外国語大学との単位互換制度を利用してアラビア語の授業を履修しており、イスラームに対する興味もあったことも国教がイスラームであるマレーシアに決めた理由の一つです。

しかし、交換留学をしようと決めたのは良いのですが、交換留学候補者になるために必要な TOEFL や IELTS のスコアアップが求められました。今まで英語の勉強に力を入れていなかった私にとって、最も大変な時間でした。なにぶん TOEIC などの資格試験よりも難易度も高く、問題を解く能力だけでなく、英語に対する教養や深い理解が求められますので、日々勉強漬けの毎日でした。その後、努力の甲斐もあり、交換留学候補者に求められるスコアを取り、無事に交換留学を行うための切符を手にすることができました。

◇ ハイレベルな授業とフィールドワーク～先住民への聞き取り調査を通して～



フィールドワーク先でお世話になった方と

マラヤ大学での留学中では、主に東南アジアの歴史や、イスラーム、中国語などの授業を履修していました。どの授業も大変ハードで教授から求められるレベルも高く、非常にやりがいがありました。また、それらの授業と並行して私の卒業論文のテーマであるマレーシアの先住民についてのフィールドワークも行いました。マレーシアの先住民はオラン・アスリと呼ばれる人々なのですが、彼らに対して直に聞き取り調査を行うことで、彼らに対するマレーシア政府の政策について、当人たちはどう考えているのか、といった生の声を聞くことができ、非常にためになる経験になりました。

◇ 留学を終えて～後輩に伝えたいこと～

私の留学期間は半年間という短期間ではありましたが、非常に濃厚な経験ができたように感じます。帰国後は4年生の8月という不利な条件から就職活動を始めましたが、無事に内定をいただくことができました。今思い返しても、留学をするという決断は間違っていなかったと思っています。是非とも留学をしようと考えている学生は、すぐに決断をして行動に移してほしいと思います。

大学生活の学部4年間は思った以上にあっという間です。この4年間で本当に充実していた4年間にするためにも、積極的に自ら動いて掴み取って欲しいと思います。



留学中にできた友人たちは一生の財産です

最後に、私は奨学金第1種受給者かつ大学の授業料全額免除の身分でしたが、このように経済的に困窮している学生も交換留学を目指して欲しいです。というのも、首都大学東京では交換留学生向けの給付型奨学金制度があり、そこまで金銭的な支出をすることなく、自ら学びたい学問に打ち込むことができます。また、留学で得た能力を存分にアピールすることで就職活動にも有利に働きます。なので、是非とも目指していただきたいと思います。心より応援しております。



マラヤ大学のキャンパスで、留学先でできた親友たちと